



# 東鍼会報

名前を募集します。  
正副会長・理事・広報部・事務局までお知らせください。

第53回

## 日本神経学会学術大会 本邦初！「鍼灸シンポジウム」



2012.05.25 東京国際フォーラム 参加者663名（関心が高く、立ち見が出ました）

**東京都鍼灸師会ホームページを  
リニューアルしました。ご覧ください!!**

ホームページアドレス

<http://www.harikyu-tokyo.or.jp>

今年度中に「公益性冊子」を発刊したいと思います。記事を募集しています。広報部にお寄せください。理事会で検討の上、掲載させていただきます。

### 目次

- ② 学術部から
- ② 青年・女性部から
- ③ 介護予防委員会から
- ③④ 支部だより
- ⑤⑥ トピックス
- ⑦ 「一鍼たすけ」
- ⑧ 講習会のお知らせ
- ⑧ ごあいさつ

# 症例検討会・鍼灸臨床セミナー

## ● 症例検討会

平田氏の報告は、間欠性跛行を主訴として、専門医の診察を受けずに来院した80才男性患者を、問診と診察の結果閉塞性動脈硬化症によるものと判断し、治療は行わずに紹介状を持たせ医療機関を紹介した、という報告でした。



安静時の疼痛や潰瘍、壊疽がないため、閉塞性動脈硬化症の重症度の分類であるFontaine分類ではⅡ度にあたるが、跛行にいたる距離が100~150mくらいであることからFontaine分類Ⅱ度のなかでもⅡbにあたるため、鍼灸単独での治療は不適応と平田氏は判断し、医療機関を紹介されたということです。決して多くはありませんが、閉塞性動脈硬化症患者に遭遇する機会はあるとは思いますが、その時にしっかりと重症度を見極めることのできる知識と検査技術をもち、なおかつ医療機関と円滑な連携が行える事の重要性を、あらためて示唆していた報告です。

小池氏の報告は、過去2回の大腸がん摘出手術の結果、慢性の便秘となり、その後パーキンソン病を発症し投薬の影響でより頑固な便秘症となった79才男性の症例でした。灸や按腹術を加えた治療の結果1回/1週間~10日の排便間隔が、週2回の治療。治療期間約5ヶ月で、2回/1週間の排便間隔が継続的に得られるようになったという

報告です。ほかの愁訴として発汗、皮膚掻痒、夜間頻尿、下腿浮腫、足部冷感、腰痛なども症状が半減したとの事。食事などの指導、慎重な治療手技の選択などにより、手術の後遺症およびパーキンソン病による、自律神経系機能の不調を鍼灸治療などにより改善がなされたという症例です。

臨床のコツは折原氏による胃潰瘍治療の刺鍼実技で、主に足三里を使った手技です。ダイオードを組み込んだコードを、おもに足三里穴を用い経絡の流れに沿って胃経などの経穴とつなぐという、独自の手技でした。



## ● 鍼灸臨床セミナー

天崎氏からは前回に引き続き、膝痛のチャートを用いて受講者同士で実際に一つ一つの検査法を確認し合い充実したセミナーでした。正しい検査法を身につけることで臨床能力向上につながる内容でした。有馬氏からは膝疾患の病態について、



解剖から鑑別診断まで受講者の理解が広がるような内容でした。

学術部

## 美容鍼セミナー

参加者の1名がモデルとして美容鍼の被験者に。

選穴法・パルスのかけ方など。片面のみ施術して左右を比較。みごとに片面だけ、ほうれい線が消え頬や目元が上がっていました。

青年・女性部





# 筋力アップ教室開催中

豊島区行政との契約により筋力アップ教室が始まりました。前期・後期に分けて開催予定です。

【前期】 5月9日から8月22日。修了後のフォローアップは10/17、11/21、12/19です。毎週水曜日10時～11時半が教室開催時間です。(参加者19名は、広報や地域包括支援センターからのご紹介。抽選を経て参加された方々です。)

## 《毎回の教室の流れについて》

- 1.教室開始前の血圧測定、問診と体調チェック
- 2.健康講話又はグループワーク

※健康講話の内容は「介護予防運動指導員養成講座」で学習したものをメインにしています。(下記参照)

- 老年症候群
- アンチエイジング
- 筋肉
- 転倒
- 栄養
- 口腔機能
- 認知症
- うつ

グループワークは参加者が数人ずつのグループに分かれ、全員での「会話」が目的です。

- 3.ストレッチ
- 4.筋力運動(レジスタンス運動)

少し強めの運動(ジワ～と汗がでるくらい)を行います。筋力運動の方法は基本となる運動を(5種類)を毎回行います。

運動の目的は「日常生活上の不具合を改善して自立した健康余命を延長、社会参加を促す」ことです。具体的には、椅子からの立ち上がりや階段昇降をスムーズに、歩幅が広がり歩行がスムーズになり転倒のリスクが少なくなること。行きたい時に行きたい場所に介助を必要とせず気軽に移動できることを維持すること。活動的な身体状況を確保して地域社会活動に参加する意欲が出るようにすること。

## 5.ストレッチ

高齢者向けの自立に有効な筋力運動の方法や、確認された健康講話・健康情報の習得ができます。高齢の方々への的確なアドバイスが可能となります。それらは日常の臨床にも生かすことが可能な情報です。

日本鍼灸師会の全国大会(東京大会)で順天堂大学大学院の白澤卓二先生が「アンチエイジング」について講演されました。講演の中で「アンチエイジングをつきつめていくと介護予防になる」と話されていました。「介護予防は抗加齢」ですから介護予防の方法は抗加齢の方法ということになります。 介護予防委員会

## 新宿区レガスマつり

震災で中止になった新宿区レガスマつりは2年ぶりに桜満開の4月7日(土)開催。

「東洋医学でいきいき健康生活」のテーマを軸に

- ①鍼灸の普及活動-「ハリ治療体験コーナー」
- ②区民向け公開健康講座のこの2本立て活動

会場は5F。チラシやポスターで告知しています。

100名収容の中くらいの研修室。体験治療や公開講座を目的にみえる方の来場でした。



## ①普及活動

新宿区民に「知らない・選べない」鍼灸を払拭するための活動。

肩こりの体験治療を実施。体験者132名

## ②区民向け健康公開講座

講演1:「解剖学者の語る健康と姿勢の話」

講演2:「試して納得!肩こり解消のイロハ!」

解剖学:河野俊彦先生

家庭でできる肩こり解消と実技

古海先生



およそ90分。聴講者は約90名。

新宿支部

## しながわエコフェスタ

5月27日(日)10:00~15:00品川区中央公園  
「しながわエコフェスタ」が開催されました。

当日は快晴。人出は過去最高の2万人を超える人気ぶり。ひろーい会場ではフリーマーケット・バンド演奏・デンジロウ先生を招いてのトーク&実験。

和太鼓や品川区オーケストラの演奏・手品までも。清掃局の粗大ゴミフェアは抽選会で、入札により決定。屋台では世界中の特産物から、珍しいB級グルメの数々。ほんとーに、こんなに盛り上がり良いの? ってくらいの混雑。さてさて、我が鍼灸師会のブースは? こりやまた、大変。ひっきりなしに来訪。

えらいこっちゃ!! 通る人達が、何やっているだろ? 呼び込みが「肩こりで、肩には、ツボ有りませんよ〜。本当のツボ治療は全身の治療で一す。肩こ

りで、肩には一切ふれませ〜ん。

これこそ、全身治療の東洋医学、鍼灸治療で〜す。」との呼び込みを展開!

まあー、通る方々もびっくり、またまた、やってもらっている方々もびーくり、こんなに気持ちの良い、また、飛び上がるほど、痛、気持ち良い。治療は初めて!!

「なんで、病院ではやってくれないの?」との声がしきり、その対応にみんな大変。そして「私、明日直ぐ電話しますのでよろしく。」との声をあちこちで聞いた。こりや良い感触。やったかいがあったエコフェスでした。

今年は、反省の甲斐あって大成功!!

こりや来年のフェスタが楽しみだー!

なんとって、今回のブース来場者が300人越え。みんな、汗だくの必至。最後の打ち上げでは、みんなもうくたくた状態。お疲れ様でした。

品川支部



## 「氣とエネルギー」茶話会

6月3日(日)12:30~16:00 昼食のお弁当を頂き自己紹介。日常臨床に携わる12名の鍼灸師が避けて通ることのできない「氣とエネルギー」

清水講師を中心にフリートークを交えて3時間半、研修いたしました。量子論や空間軸など難解そうな単語が出てきますがちゃんと講義を受けてみると意外と理解できるものです。

前篇である今回のテーマはホリスティック医学、後篇の統合医療は11月開催を予定。じっくりと正攻法の新宿区鍼灸師会の「氣とエネルギー」の研修会。学生さん、臨床の現場に間もない若い鍼灸師そしてベテラン鍼灸師の皆様もどうぞ次回ご参加ください。高田馬場「そらま」にて。 新宿支部

## 日本神経学会 「第53回学術大会」

平成24年5月25日(金) 13:30~16:00  
於：東京国際フォーラム



第53回 日本神経学会学術大会「神経内科における鍼灸活用の可能性を探る—神経科学を背景とした医療技術で鍼灸を捉える」が盛会のうちに終了しました。600名の会場が満席となり、予備イスを使用しても立ち見が出ました。



神経学会学術大会長



次期：大会長

座長の2名は現役の神経内科教授であり、それぞれの鍼灸師演者の発表に理解を示されています。

最終演者の間中先生は医学会の要職を歴任された方で、その年齢を感じさせない、わかりやすいプレゼ



ンテーションでした。

現在、日本の医科大学併設病院では3~4割が「鍼灸外来」を設けているとのこと。神経内科のお医者さんは「鍼灸の効果」を認めていて、鍼灸師との連携を始めています。

最後は座長とシンポジスト・会場を交えての質疑応答も熱の入ったものとなりました。



鈴木則宏教授(大会会長)は最初から最後まで出席され、今後の鍼灸に向けたコメントをお話されました。

シンポジウム参加者	663名
■神経内科医師	118名
■鍼灸師関係者	535名

## 「公開鍼灸シンポジウム」

平成24年5月23日(水)・24日(木) 13:30~16:00  
於：慶應大学三田キャンパスホール

それぞれのテーマは

- ①「認知症と鍼灸」
  - ②「被災地での鍼灸活用と今後の鍼灸教育」
- 設備が整った伝統ある大学のホールは300名。







PCAT:日本プライマリケア連合学会理事(医師)は「被災地の診療では約6割の方が不定愁訴で、現場医師の投薬のみでは対応できない。」とコメントがありました。

出席した学生は新設校も多く、その意気込みと

熱意が伝わってきました。インフォメーションした教員の想いも見えました。演者である東京都鍼灸師会常任理事は「熱意は原点。原点を忘れずに経験値を高めて欲しい。業団体をあげて引っ張り上げる。今後も大事なところに立ち会って欲しい。」と発信していました。

高田会長は両日とも参席され、今後あるべき鍼灸界の姿と共に、鍼灸業団体・組織力の大切さを訴えて「閉会の挨拶」としました。 広報部

## 第23回鍼灸祭：湯島聖堂



5月20日。5月晴れの下、湯島聖堂斯文会で鍼灸祭が行われました。先ず神田神社の神官によって、古代中国の医聖人を呼びこまれ、その遺徳に感謝を。そして協賛団体による玉串奉奠の神事が執り行われました。恒例の特別講演では、公益法人斯文会理事長の『桜を詠う漢詩』の講演が纏められ、7世紀の平城天皇の作から、日本語による漢詩が以後800年から1000年を懸けて見事な日本漢詩となるまでの丁寧な、泰斗の魅力溢れる学識が披露されました。

湯島鍼灸祭：世話人

# 一鍼 たすけ

## 23年後に認知症患者が 倍増する予測



{質問} 先日のシンポジウムで「23年後に認知症患者が倍増する。はり・灸施術は予防効果が期待できる。」と聞きましたが、その根拠はあるのですか？ (鍼灸学生)

{回答} 根拠はあります。ご安心ください。はり・灸は古来よりその経験則を先人から伝承され色々な病気の治療や予防に向き合ってきました。

東京都健康長寿医療センター：老化ゲノム機能研究チームの基礎研究では「はり施術によりラットの ①脳血流が10%増加した ②アセチルコリン(神経伝達物質)が2倍に増加した」ことがすでに解明されています。これに「自律神経機能の復元」が加わり鍼灸が効果を示す根拠が成り立つと思います。認知症につながる犯人説として、からだの中でつくられるアセチルコリンの合成を阻害する因子も考えられています。したがって「はり・灸」は脳の循環障害に伴う症状の改善や認知症状の改善に期待が持てるのです。

(マッサージのリラックス効果は抜群です。しかし、はり・灸のファンになる方は「スッキリした。軽くなった。身体の中から温まった。よく眠れた。元気が回復した。」などの良い反応や回復力・復元力が実感できた。とあります。私たちの業団体では智慧を出し合い「実感できる。喜ばれる。はり・灸施術の提供」をめざしています。)

世界でも認知症に対する「はり・灸」の有効性は注目されていて基礎研究・臨床研究が始まっています。日本は長寿国として「お手本」を示す立場にあります。(途上国はこれから寿命が延びて認知症患者が急増する予測があり、世界中で困っている問題なのです。)

認知症は1906年。ドイツの精神医学者：アロイス・アルツハイマー博士が患者である40代女性の「嫉妬・妄想・記憶障害は精神科疾患ではない。

違う疾患概念である。」と西ドイツの医学会で発表したことから始まりました。残念ながら100年経過した現在でもすべてが解明されておらず、すぐに特効薬ができることは望めないのが実情です。

### 認知症に取り組む専門医

- ①神経内科医 (脳卒中や認知症AD・パーキンソン病などの神経の難病=変性疾患を扱う)
  - ②脳神経外科医 (Stroke発症後の認知症VDや正常圧水頭症のタック術・シャント術)
  - ③心療内科医 (カウンセリングや回想法)
  - ④内科医 (一部の医師が取り組んでいる)
- 専門医は進行させないお薬を処方しています。

もの忘れ……脳が疲れた時に起こる症状

認知症……見当識障害がある(季節・時間・人が分からなくなる---進行すると同居の家族もわからなくなる)

もの忘れが甚だしい場合はMCI(軽度認知障害)と定義された中に一旦入ります。(早期発見・早期治療が重要課題で、行政や地域包括支援センターでは専門医との連携を進めています。地域によっては「安心ネットワーク」があり、鍼灸師はすぐにでもお手伝いができます)専門医によりその半数は更年期障害・うつ・パーキンソンに鑑別されて治療を受けます。残りの半数の方は経過観察を経て総合的かつ慎重に診断されます。

私たち鍼灸師は通院する患者さんの予防とともに「物忘れ～MCI～軽度：認知症」改善が数多く報告されれば社会から喜ばれることと思います。

広報部

第721回

# 日本鍼灸師会学術講習会のお知らせ

共催：東京都鍼灸師会

**会場** 日本鍼灸会館2階講堂（豊島区南大塚3-44-14）

**時間** 13:00～16:15

**会費** 会員・学生 3,000円 一般鍼灸師 3,500円

7月  
22日  
日曜日

スポーツ医学【スポーツ専門】 「東京マラソンにおけるメディカルスタッフについて」  
—東京マラソンの医療体制の中心概念—  
東京マラソン財団理事 医療救護委員長 山澤 文裕

鍼灸治療編……【共通】 「スポーツ選手のためのストレッチング」  
—傷害予防とパフォーマンスの向上—  
（公社）日本鍼灸師会 臨床研修会 講師 井出 勇次

※参加者と共にストレッチ実技を行いますので、動きやすい服装でお越し下さい。

ホームページアドレス <http://www.harikyu-tokyo.or.jp>



ごあいさつ

社団法人 東京都鍼灸師会会長 高田 常雄

東京都鍼灸師会の会報をご覧いただき有難うございます。私どもは、昭和25年に設立され、都民・国民の皆様が毎日健康で明るく生活していくことを、支援して行く「はり・きゅう」の団体です。

日頃は、各市区町村の健康フェスティバルや市民・区民祭りなどに参加し、「はり・きゅうの無料相談窓口」「はり・きゅうの無料体験コーナー」などを行い、都民・国民の皆様のご健康がより継続されることを目標として、はり・きゅうの技術向上のため、研修会などを毎月開催し日々の研鑽に努めております。

今年は、7月号から会報をリニューアルし、より多くの都民の皆様へのご支援および貢献できるように、全会員一丸となり、各地域の市民・区民皆様と共に前進していく所存です。平成24年度の事業計画を進めて行くことはもとより、この不安な政局の時代に都民・国民の健康を応援し、大きな災害をも想定した組織作りを進めて行かなくてはなりません。また都民・国民の皆様へ、より「はり・きゅう」が生活の一部になるような活動を継続してまいります。そして、地域社会に、これからも貢献してまいりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

発行者  社団法人 東京都鍼灸師会 会長 高田 常雄

住所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-44-14 日本鍼灸会館内

電話 3985-7501 FAX 3985-7526

メールアドレス info@harikyu-tokyo.or.jp 《制作・編集 広報部》